



2. 付属病院の診療圏分析

付属病院は地域リハビリテーション支援センターという位置づけで、リハビリテーションを必要としている患者が寝たきりになることを防止することと、より身近な地域で適切なリハビリテーションサービスを受けることができるようなネットワークづくりを推進しているが、平成 22 年度の新入院患者住所別患者数は圧倒的につくば医療圏、取手・竜ヶ崎医療圏、土浦医療圏が多い。これは脳卒中・大腿骨頸部骨折の地域連携パスに参加する茨城県南連絡協議会に参加している病院からの紹介が多いからである。平成 23 年度の病床利用率は 7 月までの累計で、すべての病棟が 70%以上で 2 つの病棟（2A ユニット＝重度患者と 3A ユニット＝回復期患者）が 80%以上であることは評価できる。

また、重度患者病棟（2A ユニット）と小児科病棟（3B ユニット）の平均で介助度の高い患者（ADL 介助度 D と E）受け入れ割合 70%以上を達成している。各病棟別の ADL 介助度別入院患者数内訳と 5 年間病床利用率は下記の通りである。また県南地区病院との連携がうまくいっていることは入院患者住所別内訳数グラフと紹介医療機関別患者数グラフからわかる。

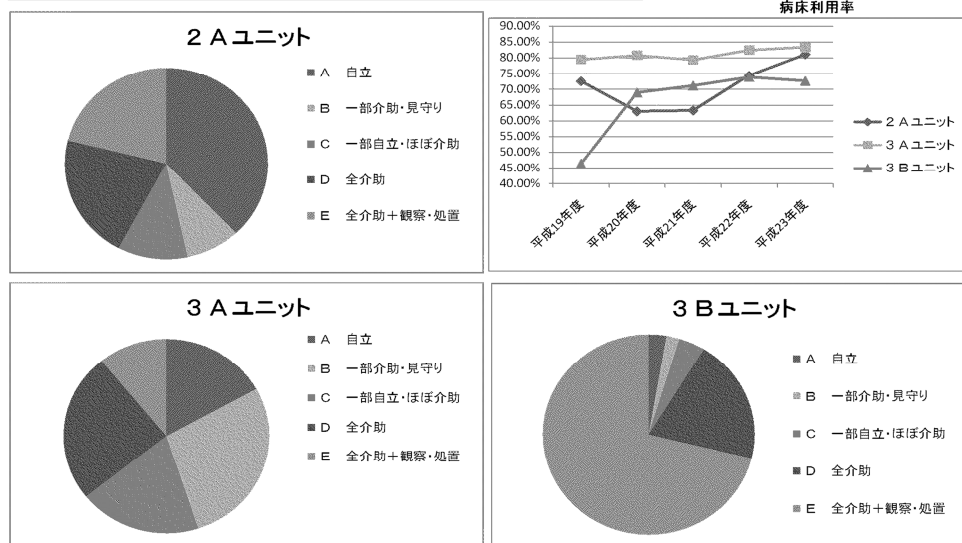
同病院の患者はすべて他の病院・診療所からの紹介であり、サービス向上委員会が毎年患者満足度調査を行っている（昨年度は 11 月 8 日から 11 月 12 日）。そして改善項目は会議において各担当部門に伝え改善提案に対する回答を依頼している。また、苦情処理・相

談処理も窓口を設け適切に処理されている。

平成19年度においては第三者による病院機能評価を実施しているが、報告書の総括において、同病院が県のリハビリテーション医療のレベルアップに貢献していることを高く評価している。また、ボランティア推進委員会があり、ひなまつりお茶会・バザー・ピアノコンサート等の行事が行われ、患者の心を癒すことを常に考えている。

病床利用率	2Aユニット			3Aユニット			3Bユニット				
	2Aユニット	3Aユニット	3Bユニット	介助度	2Aユニット	3Aユニット	3Bユニット	介助度	2Aユニット	3Aユニット	3Bユニット
平成19年度	72.59%	79.44%	46.41%	A	37.90%	17.90%	2.70%	A	37.90%	17.90%	2.70%
平成20年度	63.02%	80.78%	68.99%	B	8.70%	29.70%	2.00%	B	8.70%	29.70%	2.00%
平成21年度	63.32%	79.35%	71.17%	C	11.20%	20.50%	4.00%	C	11.20%	20.50%	4.00%
平成22年度	74.45%	82.43%	73.92%	D	21.10%	26.30%	20.10%	D	21.10%	26.30%	20.10%
平成23年度	81.10%	83.37%	72.70%	E	21.10%	11.50%	71.10%	E	21.10%	11.50%	71.10%

- A 自立
- B 一部介助・見守り
- C 一部自立・ほぼ介助
- D 全介助
- E 全介助+観察・処置



※ADL介助度とは食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴などの日常生活活動の介助度合いを言う。